独立野砲兵第一〇連隊略歴

通称名　築第二九一二三部隊

年月日	略歴	摘要
昭20 5 23	軍令陸甲築八二号により編成下令	
7 10	平壌師管区砲兵補充隊が編成担任となり平壌において編成完結。 基幹人員約三五〇名 爾後未教育兵の教育を実施	
自7 7 至2015	現地応召者入隊 日系人　約九〇〇名位 鮮系人　約六五〇名位	
8 9	日「ソ」開戦	
8 15	停戦	
8 17	現地召集解除（約一、〇〇〇名）但し日系軍人は再召集	
8 26	三合里において武装解除	
9 2	平壌美勒洞　廠舎に収容	
10 24	同廠舎出発、鉄道作業隊に編入	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭21	6	27	北鮮興南港出帆
	6	28	「ポセット」港到着
			隊長　中佐　加藤義雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

高射砲第一五二連隊第一大隊の一部略歴

通称号　築才七四二一部隊

年	月	日	概要	摘要
昭16	11	20	京城において京城防空隊を基幹として編成完結	
昭19	6		編成　連隊本部　大隊本部三　照空中隊三　高射砲中隊五　聴測中隊一	
			以後二回にわたる改編により更に高射砲中隊一、列車高射砲中隊一、高射砲教育隊一を増加編成完結以来京城に駐屯し主として京城付近の軍施設、鉄道施設等の防空に任じ停戦に至る	
昭19	11	平壌	平安北道水豊鴨緑江水電発電所同「ダム」地帯防空のため才一大隊本部、才一中隊、才三中隊を同地に分駐	
昭20	7		平安南道新安州の清川江鉄道防空のため大尉岡本清を長とする高射砲中隊を同地に分駐	
			右二ケ所に分駐せし部隊は平壌師管区司令官の指揮下に入り停戦後も同司令官隷下部隊と行動を共にす	
昭20	8	9	日「ソ」開戦	
	8	15	停戦	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

		昭21
8	25	水豐、新安州所在部隊
8	25	各駐屯地において武装解除
8	31	平壌師管区合流のため駐屯地出発
9	2	平壌三合里に収容
9	7	平壌秋乙に移動　才五作業大隊に編入
6	25	秋乙出発
7	25	興南経由　入「ソ」

大隊長　少佐　長妻　幸　寛

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立高射砲第四二大隊略歴

通称号　築第七四四一部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭18	9	20	朝参動第七六三号により防空第四二連隊を改編し平壌において独立高射砲第四二大隊編成完結	
昭19	10	14	軍令陸甲第一三七号により編成改正下令	
	11	5	朝参動第一六五一号により編成改正着手	
	11	16	編成改正完結	
昭20	8	1	爾後平壌兼二浦新義州興南の要地防空に任ず。現地応召者　約二〇〇名入隊	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	15	停戦	
自至	8	19	現地応召者を召集解除	
	8	25	平壌において武装解除	
昭21	9	3	三合里に収容され第四、第五、第六作業隊に編入、雑役作業に従事	
	4	26	平壌飛行場において作業。	
	4	29	三合里に再び入所	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自至			
5	6	6	昭20
6	18	2021	24
三舎里出発、秋乙収容所入所	秋乙収容所出発	興南経由入「ソ」	平壌本隊に合流すべく興南出発
		興南派遣隊（第三中隊）	平壌東方勝湖里において朝鮮治安隊に遭遇し各個に脱出し、ほとんど平壌本隊に合流、爾後本隊と同行動
			隊長　中佐　乾　奎　三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立高射砲第四六大隊略歴

通称号　第才七四〇四部隊

年月日	概要	摘要
昭20 6 1	京城において高射砲才一五一、才一五二連隊より差出しの人員を基幹として編成完結	
7 7	大隊本部、才二、才三中隊は羅津に才一中隊は清津に、才四中隊は新安州において興湾防空橋梁援護に従事す	
7 25	敵機の機雷投下により約二〇名負傷	
8 9	日「ソ」開戦	
	本部、才二、才三中隊の行動	
8 11	羅津より威鏡北道梨津湾に移駐	
8 14	同地より富寧に移駐	
8 15	富寧において停戦、部隊解散	
	才一中隊の行動	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	8	清津より鳳岩洞、魚遊洞に移動
11		爾後遂次交戦しつつ後退
8	8	停戦　部隊解散
15	15	才四中隊の行動
		新安州において停戦。部隊解散
		爾後部隊は直ちに収容されず各行動群ごとに、あるいは個人ごとに行動し、その後「ソ」軍に収容されそれぞれ古茂山、三合里、興南等の作業大隊に編入された
		大隊長　大尉　井出　耕太郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立機関砲第二〇中隊略歴

通称号　築才七四〇六部隊

年	月	日	概要	摘要
昭20	6	6	釜山において京城師管区砲兵補充隊からの差出し人員を基幹として編成完結	
			爾後釜山において機関砲教育を実施	
	8	9	日「ソ」開戦	
	8	12	釜山出発（平安南道新安州鎮美の清川江鉄橋警備のため）	
	8	14	新安州着	
	8	15	停戦	
	8	16	以後新京より避難の邦人の警備	
	8	24	三合里において武装解除	
			在鮮応召者および鮮人のほとんど全員召集解除	
	9	12	三合里作業大隊、鉄道作業大隊およびその他の作業大隊に編入　入「ソ」	

中隊長　中尉　柴田麟鎧

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立工兵第一三一大隊略歴

通称号　築才二九一三四部隊

年月日	概要	摘要
昭20 5 23	軍令陸甲才八四号により編成下令	
8 14	羅南師管区工兵補充隊において現地召集者を主力として編成完結	
8 15	作戦準備のため古茂山方面に移動途中停戦	
8 24	古茂山において武装解除	
8 27	古茂山収容所に入所、入所と同時に部隊解除	
9 上旬	一部古茂山才四作業大隊に編入	
昭21 11 20	清津にて船積作業等に従事	
3 20	古茂山収容所に復帰	
4 6	古茂山出発	
自4 4 9 至13	「クラスキー」経由　入「ソ」	
	隊長　中尉　有野忠雄	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸上勤務第二一一中隊略歷

通称号　築才二九一四二部隊

年月日	概要
昭20 6 14	平壤師管区歩兵才二補充隊において現地召集者をもつて編成完結
	約一週間後羅津に移動、輸送統制部の指揮下に入り陣地構築、鉄道建設作業に従事するとともに約一ケ分隊は咸鏡北道雄基の軍需品積置場の衛兵服務および羅津付近の対空監視に交替で服務
8 9	日「ソ」開戦により雄基分遣中の一ケ分隊羅津復帰
8 10	羅津出発　清津に向け出発
8 12	清津到着
8 14	清津出発　羅南経由南下
8 15	城津着、停戦、多数の者現地解散
8 20	一部元山集結
10 30	三合里、興南各作業大隊に分散編入　入「ソ」
	中隊長　少尉　桑原東蔵

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

847

陸上勤務第二一二中隊略歴

通称号　築才二九一四三部隊

年月日	概要	摘要
昭20 6 14	平壌師管区歩兵才二補充隊において現地召集者約一一〇名鮮人約三八〇名をもつて編成完結	
6 25	平壌出発	
6 28	羅津着、羅津輸送統制部、羅津出張所長の指揮下に入り阜頭作業、要塞の弾薬輸送に従事	
8 9	日「ソ」開戦	
8 10	羅津出発	
8 12	清津着	
8 13	羅南着	
8 15	停戦	
8 17	羅南出発	
8 21	城津着	
8 22	城津出発	

0633

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

		昭21
		8
		24
		平壌着　在鮮応召者は平壌において
		全員現地召集解除
		8
		26
		平壌において部隊解散、一部平壌三合里収容所に収容
		6
		20
		平壌出発　興南到着
		7
		18
		興南出発入「ソ」
	中隊長　中尉　西見信徳	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

120D

歩兵第二六一連隊略歷

通称号　邁進才一三九五三部隊

年月日	概要	摘要
昭19 2 21	軍令陸甲才一五一号により編成下令	
12 20	東寧県城子溝において歩兵才四八連隊を基幹として在満各部隊よりの人員を補充し、編成完結	
昭20 4 28	爾後国境警備並に教育に従事 部隊は南鮮に移動を命ぜられ城子溝を出発、同日鮮満国境図們通過　南鮮各地に分駐、陣地構築並に済州島に向う作戦準備	
8 9	日「ソ」開戦	
8 12	慶尚南道晋州に集結	
8 14	逐次西浦（平壌北方）に向かい晋州出発、同日慶尚北道慶山に到着	
8 15	停戦　慶山発	
8 18	平壌秋乙着	
8 24	現地応召者召集解除	
8 26	平壌において武装解除	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	9	3	将校美勒洞に収容され将校大隊（大佐　大橋建三）に編入
	10	26	同地出発
	10	30	興南経由　入「ソ」
	9	3	下士官兵三合里に収容
	9	4	主力は三合里才一八作業大隊に編入
昭21	1	初旬	三合里出発
	1	中旬	興南着　興南才一六作業大隊に編成替
	6	15	興南経由　入「ソ」
昭20	9	13	一部秋乙才三作業大隊に編入
昭21	6	11	秋乙出発
	7	12	興南経由　入「ソ」
			隊長　大佐　大　西　角　一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一二〇師団兵器勤務隊略歴

通称号　邁進才二二〇七二部隊

年月日	概要	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲才一〇六号により編成下令	
8 4	才一七野戦兵器廠において編成業務開始	
8 6	兵器受領および経理関係業務、人員編成にあたる。	
8 10	牡丹江省寧安県愛河において編成完結の予定なりしも国境において「ソ」軍侵入、命により兵器廠長指揮下に入り弾薬の輸送および分散集積にあたる。	
8 18	横道河子において武装解除	
8 24	拉古収容所に収容	
9 10	拉古才一七作業大隊に編入	
9 15	拉古出発	
9 17	綏芬河経由　入「ソ」	
	隊長　中尉　岩崎偵夫	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一二〇師団衛生隊略歴

通称号　邁進才二一〇七三部隊

年月日	概要	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲才一〇六号により編成下令	
8 4	牡丹江省寧安県液河才五軍司令部内において編成業務開始 （担任部隊　虎林陸軍病院　才五軍各部隊）	
8 8	編成完結後南朝鮮に移動予定のところ、出発前日「ソ」開戦となる。	
8 9	日「ソ」開戦となり、才一二四師団長の指揮下に入り、同師団患者収容のため牡丹江省穆稜県磨刀石より、穆稜県代馬溝に前進、穆稜方面よりの才一線部隊の傷病兵の収容に任ず。	
自 8 11	掖河に帰着	
至 8 14	掖河地区の患者の救護、ならびに収容に任ず。	
8 15	才五軍司令官の命により掖河発、寧安県拉古着	
8 16	同地において「ソ」軍機の功撃をうけ相当の損害をうけた。 横動河子に後退	
8 19	同地において武装解除、海林兵器廠跡に収容	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8	20	「ソ」軍の命令により、八面通陸軍病院と合併し海林において患者収容所を開設
		同日より将校、下士官兵に別れ、将校は昭和二十年十一月将校大隊に編入
		入「ソ」
10	10	本部下士官兵は海林才一四八作業大隊に編入
10	中旬	同地出発
11	22	綏芬河経由入「ソ」
		行李班約二十名は先行のため
9	2	拉古才二〇作業大隊に編入
9	11	同地出発、綏芬河経由入「ソ」

隊長　大尉　荒　川　喜四郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一二〇師団野戦病院略歴

通称号　遼進才二一〇七四部隊

年	月	日	概要	摘要
昭20	7	10	軍令陸甲才一〇六号により編成下令	
	8	4	牡丹江省寧安県掖河才五軍司令部内において編成業務開始	
	8	8	編成完結後、南朝鮮に移動予定のところ、出発前日「ソ」開戦となる	
	8	9	日「ソ」開戦となり才一二四師団長の指揮下に入り、才一線に配属され、穆稜県代馬溝に向かう。	
	8	12	代馬溝において「ソ」軍戦車の襲撃をうけ山中に入る	
	8	13	山中より穆稜県磨刀石にいたり、病院開設に着手したが、「ソ」軍の攻撃により開設することなく、再び山中に入る。	
	8	14	牡丹江省寧安県愛河に後退、才一線傷病兵の収容、看護の任務を続行しつつ寧安県拉古に転進	
	8	15	寧安県横道河子に転進途中、寧安県海林において「ソ」軍機の攻撃を受け死傷者続出し臨時に野戦病院を開設	
	8	18	横道河子において武装解除、将校、下士官兵と別れ、将校は牡丹江に、下士官	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

9	9	9
17	15	10
綏芬河経由入「ソ」	同地出発	下士官兵は拉古オ一七作業大隊に編入
将校は将校大隊に編入　十一月三日牡丹江出発入「ソ」		兵は拉古に向かう

病院長　軍医大尉　森本　明

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一二〇師団病馬廠略歴

通称号　遼進才二一〇七五部隊

年月日	概要	摘要
昭20 7 10	軍令陸甲才一〇六号により編成下令	
7 29	ころから各方面より小数人員を集め才二〇軍馬防疫廠が編成担任となり牡丹江	
	省寧安県愛河において編成途中	
8 9	日「ソ」開戦	
	爾後才二〇軍馬疫廠長の隷下に入り行動す	
8 10	愛河出発	
8 12	牡丹江省興隆到着	
8 16	興隆出発　横道河子着	
8 18	横道河子において武装解除	
8 25	拉古才一三作業大隊に編入	
9 9	拉古出発	
9 13	綏芬河経由入「ソ」	
	廠長　中尉　宮崎武雄	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第三六二連隊略歴

通称号　宣武才二九一〇三部隊

年月日	概要	摘要
昭20 5 23	軍令陸甲才八四号により編成下令	
7 25	咸興において羅南師管区歩兵才二補充隊からの差出し人員を基幹とし現地召集者をもつて編成完結	
8 8	平康（京城北方）に向い出発	
8 9	日「ソ」開戦	
8 14	元山に進駐、同地の警備	
8 15	停戦	
8 22	元山において武装解除（元山高女）	
8 30	武装解除時人員は三分の一位になり他は脱出帰宅す	
10 10	富坪才一六作業大隊に編入	
10 10	富坪出発	
至自 10 16	興南経由入「ソ」	
	隊長　中佐　野坂忠良	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三四軍司令部略歴

通称号　展第一八〇〇〇部隊

年	月	日	略歴	摘要
昭19	7	24	昭和十九年第一一軍司令部を基幹として軍隊区分により漢口防衛軍司令部を編成し漢口地区の防衛に任じていた。	
自20	6	中旬	漢口において漢口防衛軍司令部を第三四軍司令部に改編、編成完結。	
至	6	下旬	同日より同地付近の警備。	
自	6	下旬	移駐のため漢口出発。	
至	7	上旬	満支国境山海関、鮮満国境安東通過。	
	7	中旬	朝鮮咸鏡南道咸興着。	
			同日より同地付近の警備ならびに陣地構築。	
	8	15	停戦。	
	8	23	咸興において武装解除。	
	8	30	将校は定平、下士官兵は興上里に収容されたが九月初旬興南に移動。	
自	9	7	司令官は飛行機にて入「ソ」。	
至	10	10	興南にて作業大隊編成。	
自	10	25		
至	10	29	興南港出発。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

855の2

自至	
11 10	
2 28	入「ソ」。（「ウラジオストック」「ポセット」等） 司令官　初代　中将　佐野忠義 二代　中将　櫛淵鉉一

0645

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp